

金津祭の燃える一日

市の無形民俗文化財「金津祭」が、7月14日から16日まで行われました。

前日祭では、太鼓や祭囃子によるステージイベント「響宴」の開催に先駆けて、今年で3回目となる武者行列が出陣しました。また、「金津創作の森開館20周年・姉妹都市締結10周年記念やなせたかし展」の開幕式に参加していた姉妹都市・高知県香美市の市長一行も訪れ、金津祭を一緒に楽しみました。祭のメインである中日祭では、金津神社の神輿や3基の人形山車などが、旧金津町内の18地区を巡行。それぞれの地区で制作された本陣飾り物の前で太鼓や子ども踊りを奉納しました。



本陣飾り物コンクール

本陣飾り物の歴史は江戸時代までさかのぼり、参勤交代で本陣に泊まる殿様や役人の労をねぎらうため、商人たちが各家庭から持ち寄った日用品で飾り物を制作したことが始まりといわれています。コンクールは昭和35年に始まり、金津地区の18地区が毎年テーマを考え制作し、出来栄を競います。

前日祭

金津祭の新たな見ものとなった武者行列が出陣。今年は室町時代に旧坂井郡一帯を治めた殿様「堀江左衛門景経公」を中心に、子どもから殿様の地元番田の皆さんまでが甲冑に身を包み、市内を練り歩きました。到着した金津神社境内では、太鼓や祭囃子で盛り上がり、例年以上に、にぎやかな祭りの幕開けとなりました。



中日祭

今年は、旭区が担当する神社神輿のほか、歌舞伎十八番の演目「矢の根」から「曾我五郎」を天王区が、同じく「暫」から「鎌倉権五郎景政」を上八日区が、そして中世あわらの豪族「溝江長氏」を古区が担当し、それぞれの人形山車や太鼓、子ども踊りが巡行しました。雲ひとつない青空の下、迫力満点の太鼓の演奏やかわいらしい子ども踊りが披露されると、各地区で大きな拍手が湧き起こっていました。



金津小学校の児童もお手伝い

金津小学校5年生85人が、金津祭のために、カラフルな絵やごみの始末を呼び掛ける言葉などを描いたごみ箱を作りました。これは、「地域と進める体験推進事業」の一環で、祭りの期間中、工夫を凝らしたごみ箱を、金津神社の境内や金津本陣KOSSAの周辺に設置。児童たちは、金津祭を訪れた人に気持ち良く楽しんでもらえるようにと、一生懸命活動していました。



市観光協会賞



水口 未来に向かって鳳翼天翔
発泡スチロール、皿、折り紙

市長賞



古 天空の神殿
CD

市商工会賞



天王 歌舞伎十八番「暫」鏡金時
漆器他

市議会議長賞



十日 金鱈発見 (金のしゃちほこ)
園芸資材、れんげ、靴べらなど

県商工会連合会長賞



下八日 不死鳥
スプーン、マドラー

県観光連盟会長賞



中央 金津本陣KOSSA、金津雲雀ヶ丘寮、セントピアあわら、新富・天王・新・六日・水口・古区の本陣(常設展示場)で作品の一部を展示します。

八日



赤富士 漆器

六日



がんばれ! 福井国体 (しあわせ元気グリーン)
スポンジ、玄関マット、物干し竿他

新



3Dポスター
ペットボトルのふた、ストラップテープ

榛ノ木原



鷹 スプーン、おろし金、わら、鉄筋など

東



折り鶴 プラスチック容器、箸

旭



あさひの龍 (漆器もどき)
食卓用品

春日



しあわせ元気 春日
スポンジ、赤鯉容器、フードバック

坂ノ下



福扇 漆器、ストロー

新富



コーナーで一等賞を取るんだワン
たわし、スポンジ